

京都工芸繊維大学

地域創生 Tech Program

京都府北部を舞台とした課題解決型プログラム

2023

キミの創造力が、
京都を照らす。

地域創生Tech Program とは?

= 京都府北部を舞台とした 課題解決型プログラムです。

「地域創生Tech Program」は、2016年に開設された学部課程の共通プログラムであり、グローバルな視野をもって、工学・科学技術で地域の課題を解決できる国際高度専門技術者(地域Tech Leader)を育成することを目指しています。現在、地域や社会が直面している様々な課題は、限られた専門分野だけで解決できるものではなく、多分野の人材が協働して解決

に向けて取り組んでいく必要があります。本プログラムの特徴は、各自の専門性を生かした課題解決型学習(Project Based Learning)に実践的に取り組めることです。各課程の教育プログラムで教養や専門基礎を身につけた後、京都府北部を舞台に、地域課題の解決や、地元企業でのインターンシップに取り組む環境が整っています。



桑原 教彰 教授

工芸科学部 副学部長
地域創生Tech Program長

大谷 章夫 准教授

地域創生Tech Program担当教員

依然として新型コロナ禍での対面授業開催の困難があったにも関わらず、昨年度も京都府北部地域の企業や自治体を舞台とした課題解決型授業やインターンシップの取り組みを、ますます充実させることができました。1年生の時にはまだ高校生の面影を残す学生たちが、3年生の後学期には各自の専門性(情報工学、機械工学、化学など)を磨き上げて、大変立派な成果を地域や企業に残すことが出来ました。日本では少子高齢化による地域消滅が取り沙汰される昨今ですが、若い皆さんには地域のあり方や将来を十分に変え得る存在であることが示せました。1人では、あるいは1つの専門性では解決が難しい地域課題も、多様な人がチームとなって各人がリーダーシップを発揮することで、解決に向けたアイデアが創発されます。皆さんの手によって持続可能なイノベーションがもたらされることを、日本中の地域の人達が待っています。地域創生Tech Programではそのような人材育成のための様々な科目を提供しています。自分の生まれ育った地域を元気にしたい、地域の出身ではないけれども地域活性化に貢献したい、そのような志を持った高校生の皆さんと共に、京都府北部地域を舞台とした教育研究に取り組めることを楽しみに期待しています。地域創生Tech Programの先輩達と共に待っています。

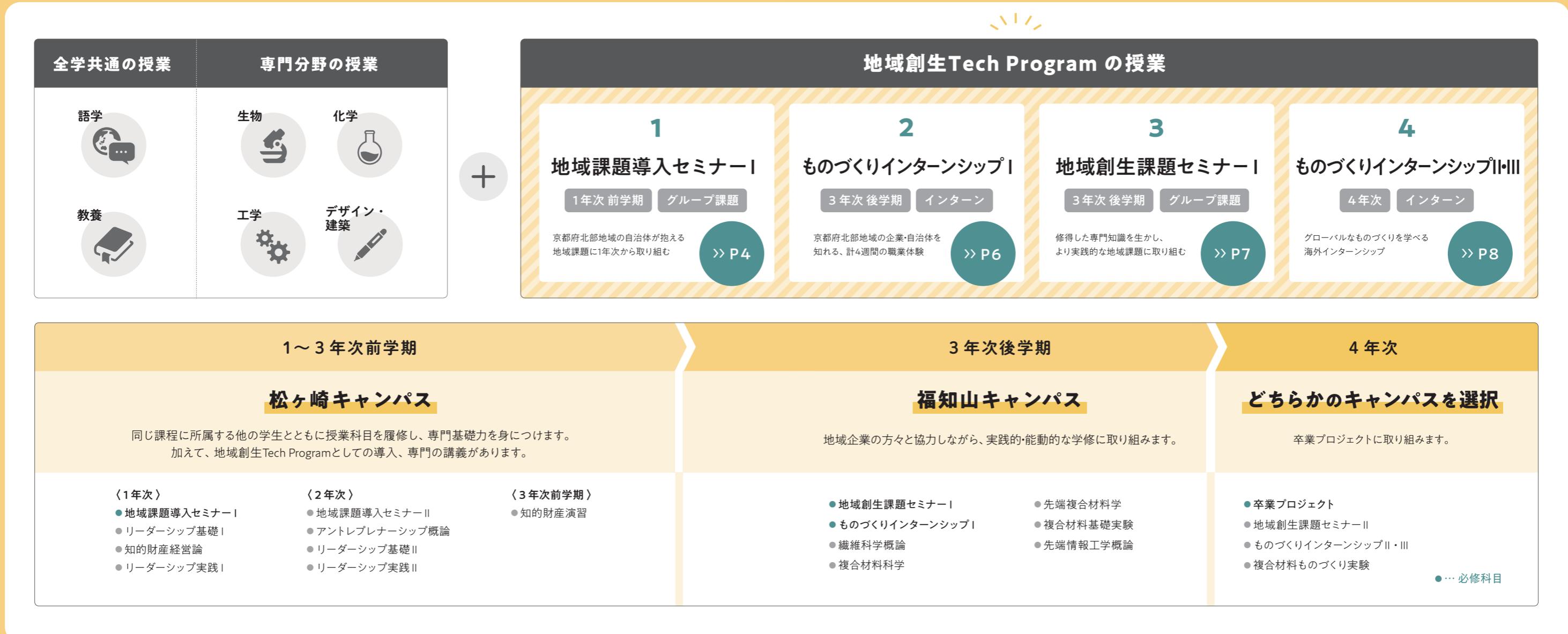
地域創生Tech Programでは、一般の学生と同様の授業に加えて『学生自身が主体となり、能動的に問題解決を図る授業』が組み込まれています。これらの授業においては、京都府北部の企業や自治体から現場の実際の課題が提出され、他課程の学生とともにグループワークを行い、自らゴールを設定し、アプローチの仕方を考え、様々な根拠をもとに自ら決断した答えを提案していくこととなります。その過程において、従来の授業では難しかった、学生が自ら考え問題解決する力を身につけていくことができます。また前述の通り、1年生から他課程の学生とともにグループワークを行うことにより、様々な考え方を持つ人とどのように協調し、そのグループでどの様な役割を果たしていくかを学ぶことができます。

この主体的に問題解決する力やグループワークで養われる能力は、長い人生の中の様々な状況で求められる能力であり、将来必ず役に立つはずです。またこの授業を通じて他課程の学生との友人関係も作れると思います。

貴重な大学生の期間に、自分の能力を高めるため京都工芸繊維大学地域創生Tech Programで学んでみませんか。お会いするのを楽しみにしています。

地域創生Tech Programでの学び

地域創生Tech Programは、全学共通の授業・各学域の専門分野の授業に加えて、地域に根差した授業を受けることができるため、充実したカリキュラムを組むことができます。



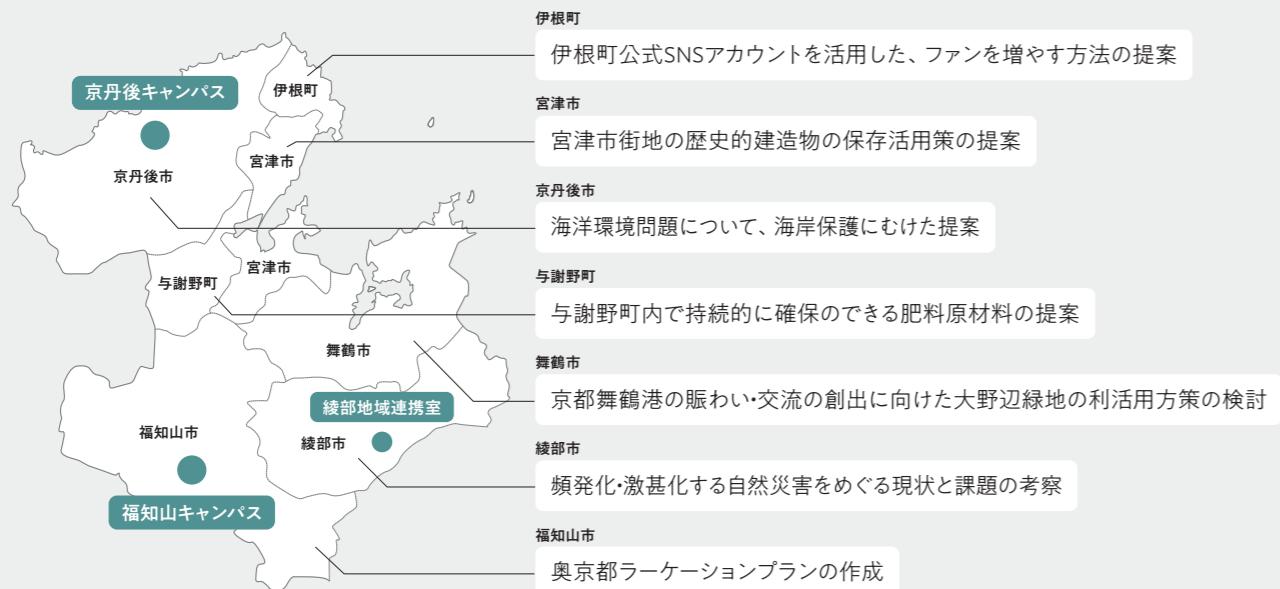
1年次 前学期 必修科目

地域課題導入セミナー!

キミのアイデアで地域の課題を解決しよう!

1年次の必修科目として取り組む最初のフィールドワーク型授業として、京都府北部の自治体が抱える地域課題の解決策をグループで提案します。他分野の人材が相互に協力して解決へ導くプロセスを体験します。

● 京都府北部の自治体から提供された課題 (2021年度)



● 地域課題導入セミナーの流れ



先輩たちの
声

地域創生は、これからの未来を担う私たちが第一に考えるべき課題なのだと実感しました。目の前の課題に目をそらさず、私たちに託された問題なのだと意識していかたいです。

京都府北部地域に、大学生である私が外部からの風を吹き入れることで、良い影響を与えられるのではないかと感じました。

京都市内に人が集まる傾向を改善し、もっと京都府北部を賑やかにしたいと思いました。自分なりに人が集まる方法を自分の分野から考えてみたいです。

地域課題導入セミナーでは、上級生がアシスタントとなり、プレゼンテーションまでサポートします。

2021年度には与謝野町からの課題に取り組んだチームが最優秀チームに選ばれ、各自治体から提案内容が高く評価されました。

与謝野町からの課題

与謝野町内で持続的に確保のできる肥料原材料の提案

地元農家から好評の与謝野町オリジナル肥料「京の豆っこ肥料」
高まる需要に対し、ある課題が…

01 現状の課題

- 1) 原材料の安定供給ができず 需要に追いつかない
- 2) 県外からの輸送コストなど 原材料コストが高い

02 課題解決のための目標設定

- 1. 与謝野町内で原材料を調達し、循環型農業に貢献
- 2. 輸送コスト、原材料コストを抑える
- 3. 安定的供給が可能で与謝野町の求める製造量を実現

II
上記3点を満たす原材料の選定を行う

03 目標達成の方法

与謝野町内の資源の中から、肥料として必要な三大要素(窒素・リン酸・カリウム)を含み、安定供給可能な資源を選定

↓
新しい「京の豆っこ肥料」の原材料を提案する

04 提案内容

提案した新たな原材料

酒粕	モルトフィード	もみ殻
成分 C: 47.0 N: 5.90 P: 0.40 K: -	成分 C: 47.7 N: 4.30 P: 0.50 K: 0.04	成分 C: 35.6 N: 0.05 P: 0.50 K: -
与謝野町は稲作が農業の中心。町内にも2件の酒蔵があり、酒粕を手に入れることができ、実際に肥料化の成功例、実用化例もある。	与謝野町ではホップ栽培が盛んで、令和5年に町内にビール工房ができる予定。ビール作りで発生するモルトフィード(ビール粕)を利用できる。	稲作の盛んな与謝野町では毎年大量のもみ殻が発生し、廃棄される。もみ殻は高くないものの、低成本で土壤改良効果がある。

成分
C: 硫素
N: 硝素
P: リン
K: カリウム

+ 従来の米ぬか

05 まとめ

提案した新「京の豆っこ肥料」では従来より安価に製造することができ、与謝野町での自然循環農業に貢献できる。実現に向けて、今後は材料の配合比率の確立など、引き続き取り組んでいく。

ものづくりインターンシップⅠ

計4週間にわたる京都府北部地域での職業体験

京都府北部の企業・自治体で計4週間以上のインターンシップが必修科目として用意されています。地域創生Tech Programならばとインターンシップを受け入れていただいている企業・自治体もあります。長期間にわたる職業体験で、地域社会で活躍できる人材としての素養を身につけます。

● インターンシップ受入企業等一覧 (2021年度)



● ものづくりインターンシップⅠの流れ



先輩たちの
声

企業の方から授業で学べないような、実践的かつ専門的な内容を大変親切に教えていただきました。

企業内の様々な部署を見る
ことで、働くイメージを持つ
ことができました。

研究や開発の仕事について、
実際にイメージすることができ
ました。

大学で学んだことが仕事や
社会でどのように生かされる
のかを知ることができました。

地域創生課題セミナーⅠ

修得した専門知識を生かし、より専門的・実践的な地域課題に挑む!

京都府北部地域の企業・自治体が抱える課題に対して、3年次前学期までに修得した各課程での専門性を生かし、より専門的かつ実践的な課題解決提案にグループで取り組みます。提案にとどまらず、課題解決のプロトタイピング(試作)までを目標とします。

● 京都府北部の企業から提示された課題を学生たちがどう解決したのか、実際の例を見てみよう!

CASE 1 黒谷の里に息づく黒谷和紙の魅力の発信

黒谷和紙協同組合



先輩たちが取り組んだ
地域課題を もっと 知ろう!

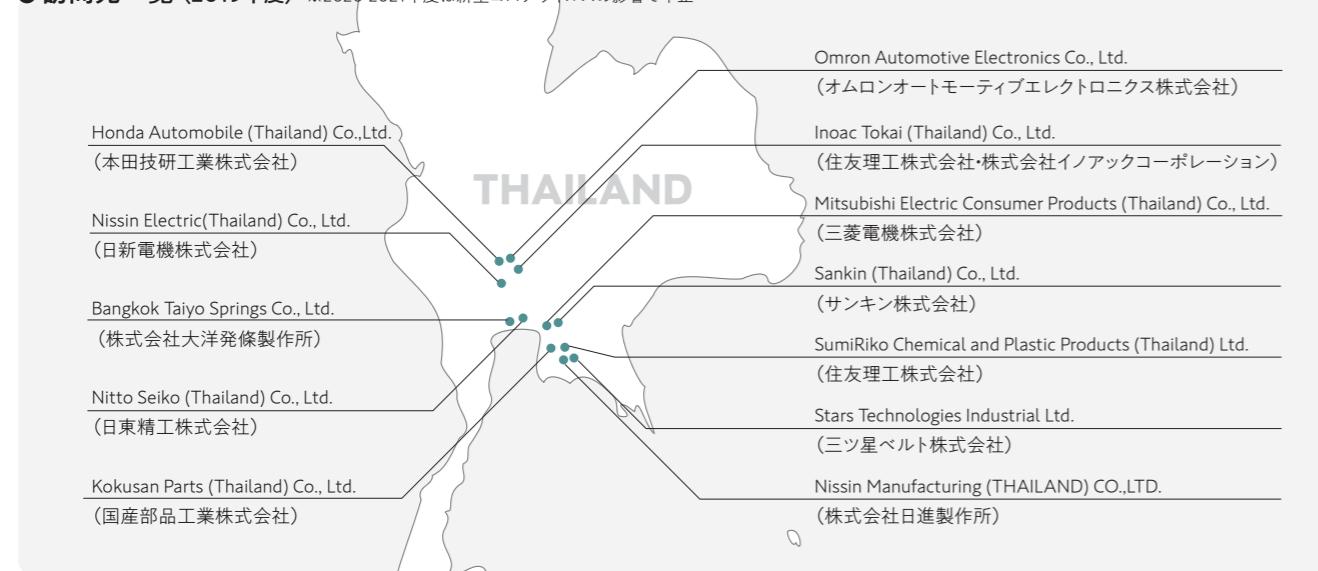


ものづくりインターンシップ II・III

グローバル化社会に対応するものづくりの仕組み・知見を身につける

グローバル化社会におけるものづくりの仕組みや、工学・化学技術により地域課題を解決する方法に関する知見を広げることを目的に、主に京都府北部に立地する企業等の海外(タイ)事業所を訪問するインターンシップを実施します。現地大学生も参加するため、学生同士の文化交流も図ることができます。

●訪問先一覧 (2019年度) ※2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響で中止



●ものづくりインターンシップ II・III の流れ (2019年度の実績)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目	12日目	13日目	14日目	15日目
日本出国～タイ到着	キックオフ オリエンテーション			企業実習	中間振り返り	フリータイム		最終振り返り	企業実習		最終 プレゼンテーション	フリータイム	タイ出国～日本到着	



先輩たちの
声

日本人駐在員の方がタイ人従業員の方へ「日本企業のノウハウを惜しみなく伝える」姿勢に感銘を受けました。

葉は違えども技術を伝えようとする駐在員の方の姿を見て海外で働くことの大変さや、やり甲斐を感じ取ることができました。

共通点や異なる点を互いに探り認め合うことで、私たちはより相手を理解し、仲を深めることができたと感じています。

このインターンシップを通して海外への抵抗が少なくなり、自分の可能性を広げることができたと感じています。

地域創生Tech Program

先輩たちの座談会

“地域創生Tech Program”で学ぶ京都工芸繊維大学の先輩たちが入学のきっかけ、プログラムの魅力について語ってくれました。



箕崎さん

地域Techの特徴でもある「ものづくりインターンシップ」や「地域創生課題セミナー」がやはり印象的です。このプログラムで社会と関わっていく経験は、卒業後の進路を選ぶ上で大きな強みになりますよね。社会人と接する機会も多く、試行錯誤しながらも社会人とのコミュニケーションを学んで実践してきたことは、自分の成長につながりました。



今井さん

確かに。普通の学生が会える大人といえば教授やアルバイト先の店長とかに限られるもんね。地域Techでは経営者クラスの方とのつながりが持てる機会もあるから、これからの進路選択にきっと影響を与えてくれるんだと思います。

“地域創生Tech Program”への入学のきっかけは?



片山さん

当初、京都工芸繊維大学への進学は一般的な課程で検討していました。京都工芸繊維大学について調べていく過程で、京都府北部地域と連携したプロジェクトを行う地域創生Tech Program(以降「地域Tech」と略)のことを知り、地元の綾部が好きだったので、綾部と何か関わることができたらなという気持ちから入学を決めました。



木村さん

僕も地元の福知山LOVEだから(笑)。松ヶ崎キャンバスだけではできない、京都府北部企業でのインターンシップがプログラムに組み込まれていたのが入学する動機になりましたね。それにダビンチ入試もあったので、入学試験のチャンスが増えるというのも後押しになったかな。



今井さん

確かにダビンチ入試が用意されていたのは大きかった。僕も、最初はダメ元で受けみてよう軽い気持ちだったのが正直なところです(笑)。地元が京丹後なので、地元に関わることができるという思いもあったけど、最初はそこまで強くなかった(笑)。実際にプログラムを通して地元を知り、地域創生への思いは強くなりましたね。



箕崎さん

私の場合、高校時代から地域創生に興味があったんです。でも、地域創生に関しては文系学部で取り扱われることが多くて、理系ではほとんどなかったんです。そんな中、地域Techなら、どの課程からでも地域創生に関するプログラムに参加できるということを知り、自分がしたい理系の勉強と両立することができると思い選びました。

“地域創生Tech Program”の授業で印象に残っているものは?



奥野さん

印象に残っているのは「ものづくりインターンシップ」です。将来の夢が研究職だったので、インターンシップで実際の開発工程を経験できたことで、研究職の具体的なイメージを持つことができ大変勉強になりました。



三谷さん

私は伝統工芸、特に染め物関係の仕事に就きたいと考え入学しました。どうしても染色の現場を体験したくて先生方にお願いし、与謝野町染色センターを「ものづくりインターンシップ」の受け入れ先に選定してもらいました。実際に経験してみると、本当に楽しくて(笑)。予定期間を延長して通っていました。

地域Techの特徴でもある「ものづくりインターンシップ」や「地域創生課題セミナー」がやはり印象的です。このプログラムで社会と関わっていく経験は、卒業後の進路を選ぶ上で大きな強みになりますよね。社会人と接する機会も多く、試行錯誤しながらも社会人とのコミュニケーションを学んで実践してきたことは、自分の成長につながりました。

確かに。普通の学生が会える大人といえば教授やアルバイト先の店長とかに限られるもんね。地域Techでは経営者クラスの方とのつながりが持てる機会もあるから、これからの進路選択にきっと影響を与えてくれるんだと思います。

高校生にぜひ伝えたい“地域創生Tech Program”的魅力は?



中島さん

長期間にわたって、課程が違う学生と一緒に「ものづくりインターンシップ」や「地域創生課題セミナー」といったプログラムを経験できるのは、他にはない大きな魅力だと思います。いろいろな価値観を持つ人たちとチームを組んだことで、多様性を受け入れる大切さを学びました。



大江さん

中島さんの言う通り、自分の課程だけでは経験できない多様性を知ることができるのが大きな魅力ですね。“理系プラスα”的学びを経験したい人に超オススメです。



足立さん

少人数制だから、学生だけでなく先生とも親しくなるというのも大きな魅力ですね。先生方が学生の意見を取り入れてくれる雰囲気があって、密な交流ができるので楽しいです。



箕崎さん

京都府北部出身者であれば、自分の地元に焦点を当てたプログラムがあること自体に魅力を感じてもらえると思います。地元に愛着がある人が入学すればきっと楽しいと思います。

先輩たちの出身高校

片山 千聖さん
京都府立福知山高等学校

三谷 紀乃さん
東京大学教育学部附属中等教育学校

木村 捷人さん
京都府立福知山高等学校

中島 広貴さん
桐蔭学園高等学校(神奈川県)

今井 宏哉さん
京都府立峰山高等学校

大江 純里佳さん
帝塚山高等学校(奈良県)

箕崎 知里さん
京都府立西舞鶴高等学校

足立 晴哉さん
京都府立福知山高等学校

奥野 祐奈さん
京都府立西舞鶴高等学校

大江 純里佳さん
帝塚山高等学校(奈良県)



座談会の全文はこちらから!

入試情報(地域創生Tech Program)

地域創生Tech Programに入学するには、3つの選抜方法があります。



① ダビンチ入試(総合型選抜)

- 多面的な能力や意欲、各課程への適性を、本学独自のプログラムで判定します。
- 11月中に合否判定が行われ、大学入学共通テストと教科・科目型の学力試験が免除されます。
- 高校生から大学生になるための必要な知識・スキル・思考法などを学ぶ入学前教育を実施。

〈第1次選考〉

- 出願書類
- 講義・レポート作成
- 志望理由書
- 地域課題レポート
- 調査書

〈最終選考〉

- 課程ごとのプログラム
(面接やレポート作成、グループディスカッション等)

京都府の高校生限定! /

② 学校推薦型選抜

- 京都府の高校に通う、又は京都府内在住の高校生限定の選抜方法です。
- 学校ごとの人数制限はありません。また、「全体の学習成績の状況」による制限もありません。
- 大学入学共通テストの成績+出願書類の内容等を総合的に判定します。
- 個別学力検査は課しません。

③ 一般選抜(前期日程)

- 大学入学共通テストの成績+個別学力検査等の成績+調査書の内容等を総合的に判定します。
- 地域創生Tech Programと一般プログラムの併願が可能です。

●募集人員(令和4年度に実施する令和5年度入試)

課程	小計	① ダビンチ入試 (総合型選抜)		② 学校推薦型 選抜	③ 一般選抜 (前期日程)	
		一般	地域※1	社会人	地域※2	一般
応用生物学課程	2	1		若干名	1	若干名
応用化学課程	3	2		若干名	1	若干名
電子システム工学課程	3	2		若干名	1	若干名
情報工学課程	3	2		若干名	1	若干名
機械工学課程	3	2		若干名	1	若干名
デザイン・建築学課程	8	4	2	若干名	2	若干名
合計	22	合わせて15		7	—	

一般:誰でも受験可能 地域※1:京都府北部5市2町の高校生が対象 地域※2:京都府の高校生が対象 社会人:社会人が対象

地域創生Tech Program生向けの特別奨学金制度もあります。

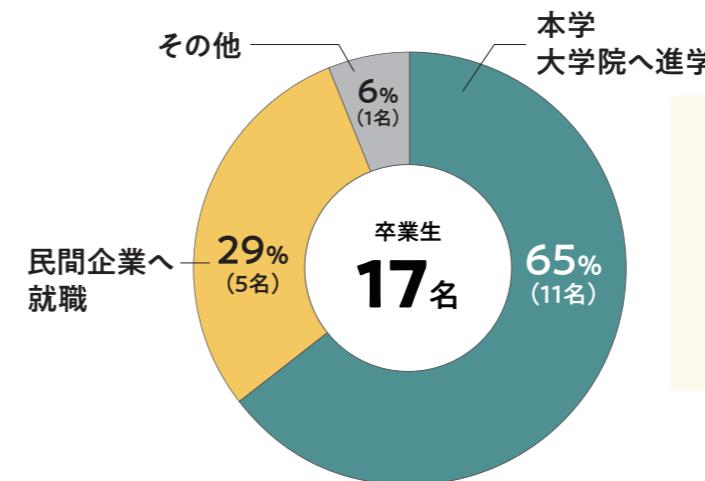
詳しくは裏表紙に記載している、学務課 連携教育係までお問い合わせください。

就職・進学実績

2021年度(2022年3月卒業者)の就職・進学データ

就職・進学など、学生の希望する進路をサポートしています。

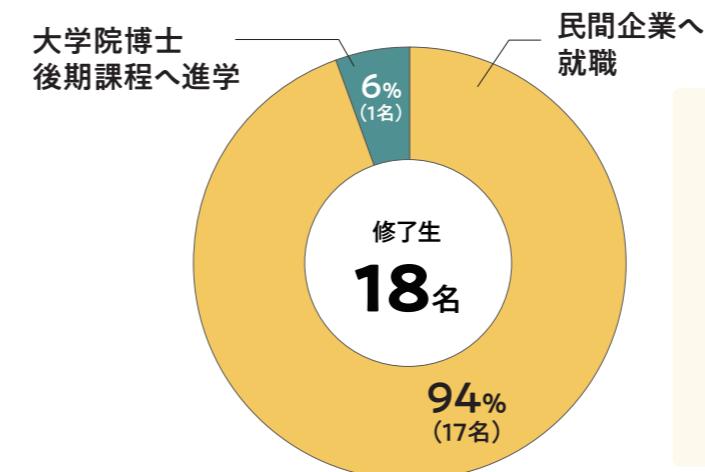
学部卒業生



就職先企業名

- 京都府外企業
- SCSKニアショアシステムズ(東京都)
- 中野積算(東京都)
- パナソニックホームズ(大阪府)
- 不二建設(東京都)
- 三井ホーム(東京都)
- その他
- 防衛省海上自衛隊(広島県)

大学院修了生(地域創生Tech Program1期生)



就職先企業名

- 京都府内企業
- 島津テクノリサーチ(京都市)
- 京都府外企業
- コクヨ(大阪府)
- ソフトバンク(東京都)
- TBSテレビ(東京都)
- 東芝ライフスタイル(神奈川県)
- トヨタ自動車(愛知県)
- なにわ工務店(大阪府)
- 日産化学(東京都)
- 日本テキサス・インスツルメンツ(東京都)
- 富士通(東京都)
- ホソカワミクロン(大阪府)

これまでの就職実績

京都府内企業

川島織物セルコン(京都市)

日進製作所(京丹後市)

日東精工(綾部市)

日東薬品工業(綾部市)

扶桑化学工業(福知山市)

京都府外企業

双日(東京都)

大黒天物産(岡山県)

ヒガシマル醤油(兵庫県)

自治体

大津市役所

京都市役所



CAMPUS LIFE PHOTO SNAP



先輩のキャンパスライフを
もっと詳しく見てみよう!



京都府北部で働く / 卒業生に会いに行こう!

インタビューの全文は
こちら! ▼



Vol.1

株式会社日進製作所
産装開発部 産装開発課 2020年入社
工芸科学部 設計工学域 情報工学課程
地域創生Tech Program卒業

足達 渉 さん

Q 日進製作所への入社動機について
教えてください!

私自身、もともと京丹後の隣の与謝野町出身なんです。一時、都会で働くことに憧れていた時期もありましたが、学部や地域創生 Tech Program での学びを通じ「情報工学の学びを活かして、地元に恩返しがしたい」と考えるようになりました。そんな中、地域創生 Tech Program の「ものづくりインターンシップ」で当社のインターンシップに参加したことが入社のきっかけになりました。世界に誇れる技術を持つ機械メーカーであり、大学で学んだ情報工学を活かせる仕事があること、ワークライフバランスや福利厚生も充実していて、地元にこんなに良い企業があったのかという想いでした。そこからは大学の先生や日進製作所の社員の方に「良い会社ですね、行きたいです!」とアピールし続けて ... (笑) そこから正式応募し採用試験を経て、入社させていただけすることになりました。



京丹後から世界に羽ばたく、超精密ホーニング(研削／研磨加工)マシンメーカー
1946年創業。世界レベルの技術で知られる京丹後市が誇るホーニング(研削／研磨加工)マシンメーカー。「夢と創造」をモットーに、高度な品質管理体制、優れた製造技術の構築を図り、新たな技術分野にも積極的に挑戦。「地域・社会への貢献」と「社員の福祉向上」にも力を入れており、社員のワークライフバランスを大切にしている。

株式会社日進製作所
〒627-0037
京都府京丹後市峰山町千歳22番地



Vol.2

日東薬品工業株式会社
信頼性保証本部 製品品質保証部 2021年入社
工芸科学部 生命物質科学域
生体分子応用化学課程 地域創生Tech program卒業

箕崎 知里 さん

Q 日東薬品工業への入社動機について
教えてください!

1回生のときに、地域創生 Tech Program の綾部市工業団地インターンシップに参加し、当社社員から「ヒトの健康を守りたい。そのためには工場だからこそできること、やらなければならないことがある」とお聞きし、熱意ある姿勢に憧れを持ちました。3回生のときの地域創生 Tech Program の「ものづくりインターンシップ」でも当社に参加しました。地元で働き地域貢献したいと思っていたのと、大学で化学を専攻していたことから病気や健康に興味があり、ヒトの健康を守る仕事がしたいと思い入社を志望しました。



京都府北部に2工場をもつ開発提案型医薬品メーカー

1947年に創立し、綾部工場(綾部市)、長田野工場(福知山市)を生産拠点とする医薬品メーカー。独自の視点で研究・開発を手掛ける医薬品事業を中心、海外事業、化粧品事業を展開する。企業理念は「ファミリーフレンドリーアンバニー」。仲間にに対する優しさ、思いやりを持ち、上司・部下・同僚の皆が良い会社にしようと協力する社風も魅力。

日東薬品工業株式会社(綾部工場)
〒623-0117
京都府綾部市とよさか町6番地
(綾部工業団地内)

Q 地域創生Tech Programの中で
特に印象に残っている授業はありますか?

入学してすぐに受講した地域課題導入セミナーで「これが地域創生Tech Programなんだ!」と実感したのを今でも覚えています。自治体から出される課題に対し、自分たちの専門知識がどうマッチングするかを考えて取り組みました。フィールドワークでは自治体の魅力を次々と発見し、気づけば自治体の方の想いに沿った課題解決の提案に向けてグループメンバーと一緒に懸命に取り組んでいました。これから学ぶ専門知識に活用の場があるのだという意識を、早い段階で持てたことは大きかったと思います。先生からは「自分の専門知識を活かせる場を知ることは大切である」と教えていただきました。

